

財務レビュー

経営成績

概況

2023年3月31日に終了した年度(以下“当期”)において、セコム(株)および連結子会社(以下、“当社グループ”)は、セキュリティサービス事業を中心に、防災事業、メディカルサービス事業、保険事業、地理空間情報サービス事業、BPO・ICT事業およびその他事業で、お客様の多様化するニーズに応えるサービス・商品の提供に努めました。

当期、2022年7月より新たに連結子会社となったセノンの寄与もあり、防災事業を除く全ての事業セグメントが増収となったことから、純売上高および営業収入は、前期比612億円(5.2%)増加の1兆2,273億円となりました。営業利益は、セキュリティサービス事業や防災事業で前期に比較的採算性の良い案件があったこと、セキュリティサービス事業を中心に将来の成長に向けた投資を増加したこと、保険事業で自然災害による損害が増加したこと、BPO・ICT事業で燃料費調整単価の上昇の影響を受けたことなどにより、前期比109億円(6.9%)減少の1,456億円となりました。一方、プライベート・エクイティ投資関連利益の増加や持分法による投資利益の増加などにより、当社株主に帰属する当期純利益は前期比38億円(3.6%)増加の1,116億円となりました。

純売上高および営業収入

純売上高および営業収入合計は、2022年7月より新たに連結子会社となったセノンの寄与もあり、防災事業を除く全ての事業セグメントが増収となったことから、前期比612億円(5.2%)増加の1兆2,273億円となりました(詳細についてはビジネスセグメント別経営成績を参照)。

売上原価および費用

売上原価および費用合計は、前期比721億円(7.1%)増加の1兆818億円となりました。売上原価は、前期比594億円(7.4%)増加の8,618億円となり、純売上高および営業収入に対する比率(原価率)は前期68.8%から当期70.2%になりました。原価率の上昇は主として、発生損害の増加で保険事業の原価率が上昇したことに加え、燃料費調整単価の上昇に伴う電気料金の増加によりBPO・ICT事業の原価率が上昇したことによるものです。販売費および一般管理費は、前期比118億円(5.8%)増加の2,160億円となり、純売上高および営業収入に対する比率(販管費比率)は、前期17.5%から当期17.6%になりました。長期性資産減損損失は、地理空間情報サービス事業で打上げに失敗した先進光学衛星に係る地上システム等の減損損失を認識したことなどにより、前期比25億円増加の26億円になりました。ただし、衛星打上げ失敗に係る損失には保険が付されており、2024年3月期において保険金の支払いを受けています。営業権減損損失は前期比12億円増加の15億円となりました。固定資産除・売却

損(純額)は前期27億円の損失から当期2億円の利益になりました。

営業利益

営業利益は、セキュリティサービス事業、防災事業、メディカルサービス事業、保険事業およびBPO・ICT事業が減益となったことから、前期比109億円(6.9%)減少の1,456億円になり、純売上高および営業収入に対する比率(営業利益率)は前期13.4%から当期11.9%になりました(詳細についてはビジネスセグメント別経営成績を参照)。

その他の収入および費用

その他の収入は前期比104億円増加の200億円、その他の費用は前期比18億円減少の26億円となり、その他の収入からその他の費用を差し引いた純額は、前期比122億円増加の174億円の利益となりました。これは主として、プライベート・エクイティ投資関連利益が前期比87億円増加の118億円となったことによります。

法人税等

法人税等は、前期比3億円増加の495億円となり、法人税等および持分法による投資利益前継続事業からの利益に対する比率(負担率)は、前期30.4%から当期30.3%となりました。

持分法による投資利益

持分法による投資利益は、海外関連会社に係る持分法による投資利益が増加したことなどにより前期比15億円増加の82億円となりました。

非支配持分に帰属する当期純利益

非支配持分に帰属する当期純利益は、前期比13億円減少の101億円となりました。これは主として、防災事業やBPO・ICT事業が減益となったことや前期にセコム上信越を完全子会社にしたことによるものです。

当社株主に帰属する当期純利益

これらの結果、当社株主に帰属する当期純利益は前期比38億円(3.6%)増加の1,116億円となり、純売上高および営業収入に対する比率は、前期9.2%から当期9.1%になりました。1株当たり当社株主に帰属する当期純利益は前期492.83円から当期516.68円に増加しました。連結財務諸表に記載されている1株当たり現金配当金は、期中に承認され、支払われた額を表示しており、2022年6月28日開催の定時株主総会において承認された1株当たり配当金90円、同年9月30日を基準日とし取締役会の決議によって決定した中間配当金90円の合計180円となっています。なお、2023年3月31日に終了した年度に係る6月27日に開催された定時株主総会において1株当たり期末配当金は95円が

承認されました。

ビジネスセグメント別経営成績

セキュリティサービス事業

セキュリティサービス事業には、オンライン・セキュリティシステムを中心とするエレクトロニックセキュリティサービス、その他セキュリティサービスならびに安全商品およびその他があります。本セグメントの純売上高および営業収入は、前期比336億円(5.9%)増加の6,003億円となりました。セグメント間取引を除くと、本セグメントの純売上高および営業収入は5,971億円となり、純売上高および営業収入合計の48.6%(前期は48.3%)を占めました。

エレクトロニックセキュリティサービスの純売上高および営業収入は、前期比82億円(2.4%)増加の3,570億円となりました。これは主として、海外子会社の増収に加えて為替の影響があったほか、セノンの新規連結の影響、国内の事業所向け・家庭向けのオンライン・セキュリティシステムの増収によるものです。その他セキュリティサービスには常駐警備および現金護送が含まれます。常駐警備は、高度な訓練を受けた安全のプロフェッショナルが、人間の判断力や応用力を最大限に生かして警備を行います。常駐警備の純売上高および営業収入は、前期に「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」の競技会場および関連施設の警備を行った反動減がありましたが、新規連結のセノンの寄与などにより、前期比137億円(18.2%)増加の892億円となりました。現金護送は、現金や有価証券などを特殊車両と安全のプロフェッショナルによって安全・確実に輸送するサービスです。現金護送の純売上高および営業収入は、前期比5億円(0.7%)増加の629億円となりました。安全商品およびその他には、防犯カメラシステム、出入管理システム、自動消火システム、屋外監視システムなど、単独でも機能し、当社グループのオンライン・セキュリティシステムと接続しても利用できる安全商品が含まれます。安全商品およびその他の純売上高および営業収入は、前期比110億円(14.3%)増加の880億円となりました。これは主として、大型のセキュリティシステムの販売型リースが好調だったことや、海外で大型のセキュリティシステムの販売が増加したことによるものです。

本セグメントの営業利益は、前期比40億円(3.5%)減少の1,094億円となり、営業利益率は前期20.0%から当期18.2%になりました。これは主として、前期に比較的採算性の良い案件があったこと、将来の成長に向けた投資などにより販売費および一般管理費が増加したこと、および営業権減損損失が前期比10億円増加の11億円になったことによるものです。

防災事業

防災事業では、オフィスビル、プラント、トンネル、文化財、船舶、住宅といった様々な施設に対し、お客様のご要望に応えた高

品質な自動火災報知設備や消火設備などの各種防災システムを提供しています。また、国内防災大手2社である能美防災およびニッタンが、それぞれの営業基盤や商品開発力などを生かした防災システムの受注に努めました。

本セグメントの純売上高および営業収入は、前期に大型案件があったことなどにより、前期比33億円(2.2%)減少の1,488億円となりました。本セグメントの営業利益は、前期に比較的採算性の良い案件が集中したことなどにより、前期比30億円(20.4%)減少の116億円、営業利益率は前期9.5%から当期7.8%になりました。

メディカルサービス事業

メディカルサービス事業では、訪問看護サービスや薬剤提供サービス、国内提携病院の運営支援、医療機器などの販売、インドの総合病院の運営などの医療サービス、シニアレジデンスの運営などの介護サービス、健康・予防サービス、電子カルテなど医療ICTサービスを提供しています。また、当社グループが主たる受益者である変動持分事業体が国内提携病院等を経営しています。

本セグメントの純売上高および営業収入は、国内提携病院が減収となったことや薬剤提供サービスが薬価改定の影響で減収となったことなどから、前期比4億円(0.2%)増加の1,965億円となりました。本セグメントの営業利益は、国内提携病院が減益となったことなどから、前期比31億円(23.0%)減少の105億円、営業利益率は前期7.0%から当期5.3%になりました。

保険事業

保険事業では、セキュリティシステム導入によるリスク軽減を保険料に反映した事業所向けの「火災保険セキュリティ割引」や家庭総合保険「セコム安心マイホーム保険」、ガン治療費の実額を補償する「自由診療保険メディコム」、セコムの緊急対応員が要請に応じて事故現場に急行するサービスを付帯した自動車総合保険「セコム安心マイカー保険」などの販売を引き続き推進しました。

本セグメントの純売上高および営業収入は、前期比70億円(12.7%)増加の619億円となりました。ガン保険「自由診療保険メディコム」の販売が堅調に推移したことに加え、運用資産に係る純実現損益(投資有価証券評価損益を含む)が前期12億円の損失から当期50億円の利益となったことによります。本セグメントの営業利益は、前期比15億円(17.0%)減少の71億円となりました。これは主として、自然災害による損害が増加したことによりますが、前述の運用資産に係る純実現損益の改善により、一部相殺されています。

地理空間情報サービス事業

地理空間情報サービス事業では、航空機や車両、人工衛星な

どを利用した測量や計測で地理情報を集積し、加工・処理・解析した地理空間情報サービスを、国および地方自治体などの公共機関や民間企業、さらには諸外国政府機関に提供しています。

本セグメントの純売上高および営業収入は、主として国内公共部門および海外部門の増収により、前期比57億円(10.2%)増加の623億円となりました。本セグメントの営業利益は、長期性資産減損損失が増加しましたが、国内公共部門の原価率の改善などにより、前期比19億円(49.9%)増加の58億円となり、営業利益率は前期6.8%から当期9.3%になりました。

BPO・ICT事業

BPO・ICT事業では、データセンターを中核に、セコムならではのBCP支援、情報セキュリティ、クラウドサービスの提供に加えて、コンタクトセンター業務を含む様々なBPO業務の受託・運営を行っています。

本セグメントの純売上高および営業収入は、新型コロナウイルス感染症関連業務の増加に加えて新規顧客開拓や既存顧客からのオーダー増加などによるBPOサービス事業の増収や、データセンター事業の増収などから、前期比141億円(11.3%)増加の1,389億円となりました。増収に伴う増益効果はありましたが、データセンター事業における燃料費調整単価等の上昇などによる原価の増加などにより、本セグメントの営業利益は、前期比15億円(10.0%)減少の131億円となり、営業利益率は前期11.7%から当期9.4%になりました。

その他事業

その他事業では、不動産賃貸および建築設備工事などを行っています。また、2022年7月より新たに連結子会社となったセノンが提供する事業のうち、車両運行管理事業は本セグメントに含まれています。セノンの新規連結などにより、本セグメントの純売上高および営業収入は、前期比57億円(16.1%)増加の411億円、本セグメントの営業利益は前期比14億円(22.9%)増加の75億円、営業利益率は前期17.3%から当期18.3%になりました。

財政状態

2023年3月31日現在(以下“当期末”)、当社グループの資産合計は、前期比939億円増加の2兆2,774億円となりました。流動資産は、前期比98億円増加の1兆365億円となり、資産合計の45.5%を占めました。また、流動比率は前期末同様2.4倍になりました。

流動資産の主な内訳を見てみますと、現金・預金および現金同等物は、前期比68億円減少の5,248億円となりました(詳細についてはキャッシュ・フローを参照)。売掛金および受取手形は、地理空間情報サービス事業の純売上高および営業収入が増加したことなどに伴い、前期比75億円増加の1,729億円となりました。なお、売掛金および受取手形の期末残高は、期末に向けて収益が集中する防災事業や地理空間情報サービス事業の影響を受ける傾向にあります。現金護送業務用現金・預金は、前期比10億円減少の1,355億円となりました。なお、現金護送業務用現金・預金は、主に当座貸越契約および預り金により調達し、当社グループによる使用が制限されています。棚卸資産は、前期比86億円増加の468億円となりました。この増加は主として、仕入難を回避するため防災関連製品の部品等の在庫を増加したことによりです。

投資および貸付金は、前期比342億円増加の3,837億円となり、資産合計の16.8%を占めました。この増加は主として、プライベート・エクイティ投資において評価益を計上したことなどにより、投資有価証券が前期比200億円増加の2,350億円になったことや、海外関連会社の業績が好調だったことに加え円安が進行したことなどから、関連会社に対する投資が前期比80億円増加の796億円になったことによりです。

減価償却累計額控除後の有形固定資産は、前期比112億円増加の4,360億円となり、資産合計の19.1%を占めました。この増加は主として、データセンター新設に向けた設備投資により建設仮勘定が前期比108億円増加の206億円になったことによりです。

その他の資産は、前期比387億円増加の4,211億円となり、資

産合計の18.5%を占めました。この増加は主として、セノンを買収したことなどに伴い、営業権およびその他無形固定資産がそれぞれ320億円増加の1,416億円および71億円増加の657億円になったことによりです。

負債合計は、前期比34億円増加の8,419億円となり、負債および資本合計の37.0%を占めました。流動負債は、前期比149億円増加の4,341億円となり、負債および資本合計の19.1%を占めました。この増加は主として、データセンター新設に向けた設備購入未払金の増加などによりその他の流動負債が前期比139億円増加の445億円となったことによりです。固定負債は、前期比116億円減少の4,078億円となり、負債および資本合計の17.9%を占めました。

当社株主資本合計は、前期比577億円増加の1兆2,672億円となり、株主資本比率は前期末55.4%から当期末55.6%になりました。利益剰余金は、当社株主に帰属する当期純利益の計上や配当金の支払いなどにより、前期比724億円増加の1兆2,123億円となりました。外貨換算調整額は円安に伴い前期比161億円増加の190億円となったことなどにより、その他の包括利益累積額が前期比149億円増加の236億円となりました。一方、市場買付により自己株式を取得したことなどから自己株式が前期比298億円増加の1,092億円となりました。

非支配持分は、主としてセノンを買収したことに伴い、前期比329億円増加の1,683億円となり、負債および資本合計の7.4%となりました。

キャッシュ・フロー

当社グループは、柔軟な事業活動を行い強固な財務基盤を保つために、高い流動性を維持しています。また、営業活動から得た現金・預金で、積極的に事業投資活動を行っています。

営業活動から得た現金・預金(純額)は、当期1,562億円となりました。主な増加要因は、非支配持分控除前当期純利益1,217億円、減価償却費および償却費(繰延費用の償却費を含む)787億円を計上したことです。一方、主な減少要因は、プライベート・エ

クイティ投資関連利益118億円や持分法による投資利益82億円を計上したほか、棚卸資産の増加90億円や長期繰延費用の増加80億円です。

前期と比較しますと、営業活動から得た現金・預金(純額)は291億円減少しました。これは主として、営業利益が減少したことや、未払法人税等が前期40億円の増加に対し当期40億円の減少となったことによるものです。

投資活動に使用した現金・預金(純額)は、当期773億円となりました。これは主として、セキュリティサービス契約者増加に伴うセキュリティ機器の購入などにより有形固定資産の購入528億円、セノンの買収などによる子会社の取得(取得した現金・預金控除後)189億円で現金・預金を使用したことによりです。

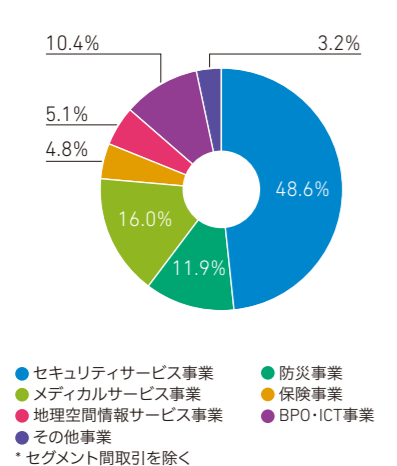
前期と比較しますと、投資活動に使用した現金・預金(純額)は170億円増加しました。これは主として、前期は子会社の取得がありませんでしたが、当期は子会社の取得189億円があったためです。なお、保険事業や米国のプライベート・エクイティ投資の運用などにより、有価証券および投資有価証券の購入や売却・償還による現金・預金の増加(純額)は、前期16億円から当期19億円となっています。

財務活動に使用した現金・預金(純額)は、当期872億円となりました。これは主として、当社株主への配当金の支払391億円、市場買付により取得した自己株式の増加(純額)298億円、長期借入債務の返済167億円の現金・預金を使用したことによりです。

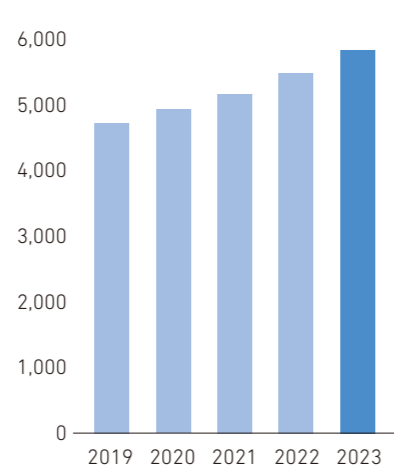
前期と比較しますと、財務活動に使用した現金・預金(純額)は101億円減少しました。これは主として、自己株式の増加(純額)が前期より増加したものの、前期にセコム上信越への公開買付けなどにより非支配持分からの子会社株式の取得で286億円を使用したことによりです。

これらの結果、現金・預金および現金同等物は、期首残高5,316億円から68億円減少し、当期末残高5,248億円となりました。

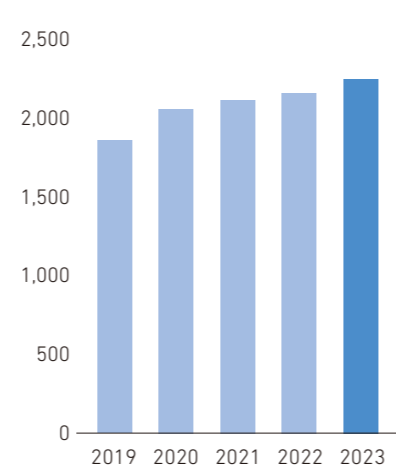
純売上高および営業収入に対する割合*
(2023年3月31日終了年度)



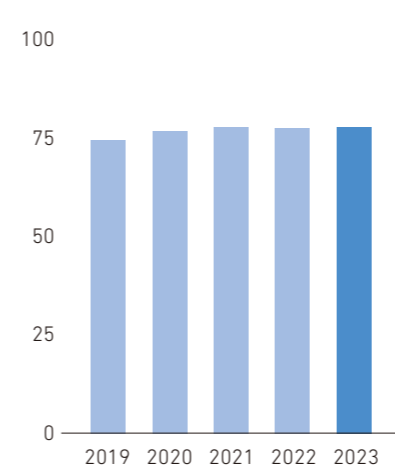
1株当たり当社株主資本
(円)



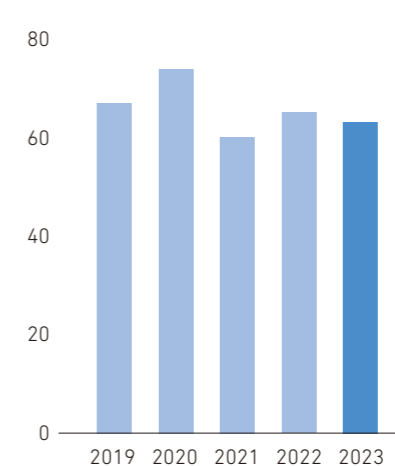
総資産
(10億円)



減価償却費および償却費
(10億円)



有形・無形固定資産の購入額
(10億円)



キャッシュ・フロー
(10億円)

